

HLA 遺伝子 (phenotype ; 蛋白レベル) を 指標とした癌治療班

研究班代表

福島県立医科大学医学部 外科学第2 竹之下 誠一
東海大学医学部 消化器外科 生越 喬二

現在まで登録された症例は表のごとくである。

班研究は、下記の日時に行われた。

1. 平成18年5月31日(水) 15:00~
京王プラザホテル44階「アイリス」
2. 平成18年11月24日(金) 16:00~
新宿ワシントンホテル新館3階「高尾」
3. 平成19年3月29日(木) 16:00~
アルカディア市ヶ谷私学会館7階「吉野の間」

HLA 抗原の測定に関し、microtoxicity assay から DNA assay に変更されたこと、研究費に関しても、今後努力することが報告された。

数量化理論を利用した HLA-oriented therapy から肺がんでも同様な成績が得られたことが報告さ

れ、今後、肺がんグループも班員に加え、検討をすることが報告された。

今後の研究の方向として、数量化理論を利用した HLA-oriented therapy から、HLA 抗原のスコア化による oriented therapy が可能であることが報告された。胃癌で確立したスコアを利用して、大腸癌でも、最適治療の予測が可能であり、今後、胃癌と同様に oriented therapy が可能であることが報告された。胃癌、大腸癌に関しては、米国でも併行して臨床研究を進める予定であることが報告された。

今年度以降の班研究の方向としては胃癌、大腸癌、(可能であれば肺癌)を対象として、班員を公募して、HLA 抗原のスコア化による HLA-oriented therapy を行うことが提案された。

2000~2001年 (H12~13)

・日本人の胃癌の発生におけるヘリコバクターピロリ感染と HLA 拘束性に関する研究 班代表 小柳泰久
・日本人の癌の発生、治療応答に関わる遺伝学的要因に関する研究 班代表 生越喬二

2002~2003年 (H14~15)

・HLA 遺伝子 (phenotype ; 蛋白レベル) を指標とした癌治療班 班代表 小柳泰久

2004年~ (H16~)

・HLA 遺伝子 (phenotype ; 蛋白レベル) を指標とした癌治療班 班代表 竹之下誠一、生越喬二

施設名	計	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007(年)
東海大学消化器外科	252	14	33	30	37	39	26	50	23
対照症例									
東京医科大学第3外科	10	0	7	2	1	0	0	0	0
対照症例						13	0	0	0
福島医科大学外科2	1	0	0	1	0	0	0	0	0
対照症例									
日本医科大学1外科	5	0	0	0	2	1	0	2	0
対照症例						2	1		
東京通信病院外科	11	0	7	4	0	0	0	0	0
対照症例				8					3
兵庫医科大学	1	0	0	0	1	0	0	0	0
対照症例									
大分医科大学	1	0	0	0	1	0	0	0	0
対照症例									
東京慈恵大学外科	1	0	0	0	0	1	0	0	0
対照症例									
坪井病院	5	0	0	0	0	3	1	1	0
計	235	14	47	45	42	59	28	53	26